

# gakuto

\*学塔\*



2008.Autumn

No.122



自著を語る「**跋扈する怨霊:崇りと鎮魂の日本史**」

クローズアップ

これだけは読んでおきたい

**各学部の先生からのオススメ本**

From Students

**学生さんが体験・図書館職員**

ブックロウのPick Upコーナー!!

**書庫内資料もぜひご利用ください**

**三重県郷土誌データベース**

I See

News!

秋の講習会のお知らせ

**特集** **三重大図書館**  
**なんでもランキング!**

自著を語る

『跋扈する怨霊：崇りと鎮魂の日本史』

〈吉川弘文館 2007〉  
〔所在〕図・展示棚/図・開架図書  
〔請求記号〕210.36/Y19

山田 雄司 先生  
人文学部・准教授



怨霊と聞くと、ちょっと怖いものという印象がありませんか？この図書は、怨霊に対する心の動きを通して「日本人とは何か？」を考えることができる1冊です。著者の山田先生は日本史の中でも霊や怨霊を研究する「異端」の道を進まれています。異端の道を歩む楽しさも語っていただきました。

長い歴史の中での怨霊

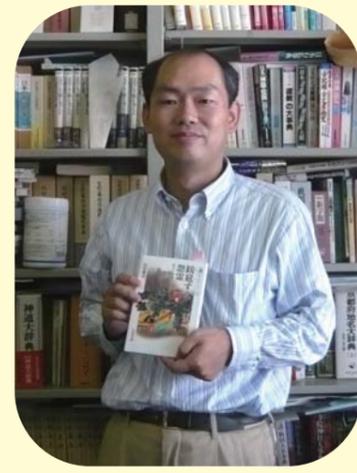
古くから中世、近世、近代の長い歴史の中で、日本人の怨霊に対する考え方がどのようにして出てきて、なぜそういったものが盛んになって、どのように衰退していったのかという問題を考えました。怨霊は怖いものだという認識がありますが、それを歴史の中に位置付けて、誰がどんな意図で怨霊というものを認識し、いかに鎮魂していたのかを考えてみました。

日本人は霊を重んじる

先生は「日本人とはなにか」「日本人の信仰」について考えたとき、怨霊や霊魂は重要であろうとお考えですが、なぜ怨霊から日本人の特徴が見えてくるのでしょうか。また先生から見た日本人像を教えてください。怨霊とは、心が作り出した像であることから、現実のものより一層心の内面が反映されていると思います。世界全体から見たら、怨霊を認める民族は非常に少数派で、そこに日本人とは何かを探る力があるのではないかと思っています。日本人は、霊的存在を重要視し、日々の生活に感謝して大きな転換を好まない民族と言えるのではないのでしょうか。

二つに物事を決められないところが難しい

怨霊は、実際に目にする事ができません。目に見えないものを対象に研究をすることの特徴は、苦勞などを教えてください。観念というものはすべての人が同じように持つていて、わけではない点が多いです。目に見えるものであったら、これはこうですと示せば明らかですが、観念的なものを具現化して提示するところが難しさがあります。怨霊もすべて



作られた怨霊

日本人が怨霊を認識するようになった根底には、死後の世界に対する考えがあります。人は死後、安住の地へ行くものと考えられていますが、もし行くことができなかった場合に、霊魂はどのようになるのかと考えられるようになりました。そして、怨霊というものが自分を追いやった人々に対して呪つて出るという形で登場するようになったのです。しかし、単に相手に追いやられて非業の死を遂げたからといって、必ずしも怨霊になるわけではありません。その後、追いやった側が病気になるとか、天変地異が起きなければ怨霊とは思われません。また、追いやった側の立場から見ると、自分の非を認めることになるため、怨霊として認識しにくいはずですが、追いやられた側の周りの人が、自己の復権のために怨霊や噂を作り出したのではないかと思えます。

社会を本来あるべき姿に戻す

なぜ怨霊の存在を信じる人がいるのでしょうか。また、社会へはどのような影響を与えていたのでしょうか。ひとつは、政治的な対立が奈良時代以降強まり、平城京や平安京といった狭い範囲で対立が起こることになりました。そのなかで自分の行動が良くなかったと感じる機会が増えたり、あの人は罪のない人を陥れたと噂が広まりやすくなったりしました。このような都市的な問題が怨霊の出現と関係があると思います。

もう一つの理由は、強引なやり方が反発を買ったことです。政争に巻き込まれて権謀術数を駆使して相手を陥れることをすると、やはりそれはやりすぎなのではないかという評価をされます。そして陥れた人は怨霊になって祟り、追いやった人を呪つたと信じられるようになったかと思えます。強引に相手方を陥れた場合、負けた側にもそれなりの理があるはずだと日本人は考えます。そして、たとえ負けた側に非があったとしても、死んだことで罪が償われたと判断します。怨霊は、怨霊を造り出した強引さを批判し、反対側に揺り戻すことにより、行き過ぎにストップをかける

バイオリアンツの面白

日本史の場合、政治史や経済史がオールドソックスな研究分野と考えられます。霊や怨霊といった分野はいわゆる「異端」かもしれませんが、異端の道を歩むことの楽しさを教えてください。自分で自分の道を切り開いていけることが、面白いと思います。もちろん先行研究もあるわけですが、まとまった研究がそんなにないわけではなかったため、自分が切り開いていくことの楽しさがあります。日本史の場合、政治史などではなく、先行研究があつて、重箱のズミをつくような議論もなければありません。私はそれよりも自分が好きなことを好きなようにできる分野を選びました。かといって、興味本位だけでやっているわけではなく、この分野こそ日本史研究に必要なだと思つて研究しています。現在の私たちとは違って昔の人はこのように考えていたのだということを知るのには新鮮なことで、自分自身を見つめ直すことにもつながります。

学生時代にしかできない冒険

三重大生へのメッセージをお願いします。三重大生は、ほとんどの学生がおとなしくてまじめに勉強していると思います。でも、もつと学生時代に冒険をしてもよいのではないのでしょうか。私も学生の時に中国に1か月半放浪の旅に出たことがあります。いろいろなことに手を広げていろいろな分野の図書を読んで、難しい古典などにも挑戦することが必要だと思えます。学生の時にしかできない冒険をしてほしいと思います。

貴重なお話ありがとうございました。



これだけは読んでおきたい!!各 学部の先生からのオススメ本

READING LIST

人文学部 藤本真理先生

田中芳樹 著  
『銀河英雄伝説』  
徳間書店  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕913.6/Ta841/10

民主主義は良いと思う人で、その理由を説明できる人はどのくらいいるだろうか。本作は、世界制覇をめざす独裁帝国とそれに抵抗する民主主義勢力—彼らの祖國は衆愚政治に陥り崩壊—の戦いを中心とする、速い(架空の)未来の歴史物語である。祖國の民主主義の墮落と、敵國の良心的独裁を前にしても、彼らが民主主義を肯定するのはなぜなのか?また、本作ではカルト、テロリズム、文民統治など、現実世界の政治に通じる多様な要素が組み込まれている。それらに目を留め、自分で考えながら読み進めてほしい。

教育学部 松本昭彦先生

玉上琢弥 著  
『源氏物語音読論』  
岩波現代文庫  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕913.36/Ta 77

物語の読者には二種類あつた。女房の「音読」聞いて楽しむ姫君クラスと、一人、テキストを読む女房階級と。この本は、源氏物語の本文のいわゆる「草子地」の問題から、女房の「音読を聞く」という「読書」のスタイルを継述する。実態としてそのような読書の方法が一般的であったか否かは別として、物語本文から、その奥に隠れた物語享受の様式を解明する過程は、とてもスリリングで楽しい。文学作品を研究することの—典型として、読んでほしい本である。

医学部 内田敦子先生

ジョン・マン著・山崎幹夫訳  
『殺人・呪術・医薬—毒とくすりの文化史』  
東京化学同人  
〔所在〕図・書庫/医・薬理学  
〔請求記号〕491.59/Ma 45

絵画の中のお嬢様がうっとりとしたまなざしでこちらを眺めている理由は、中世ヨーロッパで信仰に利用された植物が原因かもしれない?!この本は、古代から人類と関わり深い自然界に存在する毒についての話に始まり、それらの毒が歴史を経て薬として使用されるに至った経緯、そして抗生物質や抗ガン剤など、広範囲の医薬が開発されてきた歴史について、興味深くつづられた本です。薬理学の基礎知識についてわかりやすく触れられていてとても参考になります。

工学部 松浦健治郎先生

榎文彦他 著  
『見えてくる都市江戸から東京へ』  
鹿島出版会  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕520.8/S/162

私が大学4年生の時、都市計画の研究室に入つて都市デザインの勉強をするぞつと意気込んでいた頃、悪友のジーンズのポケットには常にこの本が入っていました。彼は私に向かって「お前さあ、都市計画の研究室にいて、これを読んだことないなんて恥ずかしいぞ!!」と挑発してきました。その日から1週間ほどかけて夢中で読んだ思い出があります。この本を読んだ後には都市のみかたが変わります。都市や建築に興味がある人はぜひ読んで下さい。

生物資源学部 田口 寛先生

西岡秀三 監修  
『地球温暖化 この真実を知るために 地球温暖化 全人類に突きつけられた最大の課題 何が起きるか?どう克服するか?』  
ニュートンプレス  
〔所在〕図・開架・図書  
〔請求記号〕451.3/Ko 78

全人類に突きつけられた地球環境の最大の課題—地球温暖化。この100年間で、日本各地の平均気温は、約1度上昇しており、東京では、大都会に特有のヒートアイランド現象で、なんと3度も上昇していることが、気象庁のデータからわかっている。このままのスピードで気温の上昇が続くと、いろいろな面で大変なことになるかと騒がれているが、科学的に分析し判断すると、何が原因で、何が起きるか、どう克服すべきか?などについて、全ページカラー版で、最新の情報をわかりやすく解説した本であり、地球人の一般常識として、すべての人が一読すべき本であると思う。

共通教育 中川 正先生

『聖書』  
日本聖書協会  
〔所在〕図・書庫・土井文庫  
〔請求記号〕190/8/2

アメリカ南部の大学院に留学していた5年間に、宗教観調査のために数百人に聞き取りをした。その時に、天地創造やキリストの死、復活、再臨などの聖書の世界を現実のものとして信じている人が多くいることに気づき、大きな衝撃を受けた。博士論文を書くためには聖書の知識が不可欠であること痛感し、真剣に聖書を読んで勉強したことを覚えている。その時に身につけた聖書の知識が、今でも研究において貴重な財産となっている。

# 三重大図書館 なんでもランキング!

## 特集

学生さんに人気の本やDVDのランキングを発表!  
図書館には、今、流行の本も本屋さんに並んでいないような古い資料もあります。  
どんな資料があるかチェック!あなたの知らない資料に図書館で出会えるかも☆



## 他館への貸出が多い図書

他の図書館への貸出もしています。

- 1位 『四国はどこまで入れ換え可能か』 佐藤雅彦 著 / 新潮社
- 2位 『ウケる技術』 小林昌平, 山本周嗣, 水野敬也 著 / 新潮社
- 3位 『特別支援教育のアイデア172 小学校編』 月森久江 編集 / 図書文化社
- 3位 『ヒルガードの心理学』 Edward E. Smith [ほか] 著; 内田一成 監訳 / プレーン出版



## 人気の視聴覚資料

視聴覚資料はすべて館内でご覧いただけます。

視聴覚資料のリストはこちら!

[http://www.lib.mie-u.ac.jp/guide/material/video\\_list1.html](http://www.lib.mie-u.ac.jp/guide/material/video_list1.html)

- 1位 『不都合な真実』 発売元: パラマウント ジャパン  
Copyright (c) 2006 by PARAMOUNT CLASSICS, a Division of PARAMOUNT PICTURES. All Rights Reserved. TM.(r) & Copyright (c)2007 by Paramount Pictures. All Rights Reserved.
- 2位 『オリバー!』 発売・販売元: (株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
- 3位 『図書館の達人 司書実務編』 レファレンス・サービス 製作・発売: 紀伊屋書店
- 4位 『サウンドオブミュージック』 社名: 20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント
- 4位 『フレンチ・コネクション』 社名: 20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント
- 4位 『ロッキー: 特別編』 社名: 20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント

## 貸出が多い図書

人気の図書は貸出中になっていることがほとんど。予約サービスを使って上手に利用してくださいね!

- 1位 『陰日向に咲く』 劇団ひとり 著 / 幻冬舎
- 1位 『ダーリンは外国人 with BABY』 小栗左多里 著 / メディアファクトリー
- 1位 『ダイニング・アイ』 東野圭吾 著 / 光文社
- 4位 『カラフル』 森絵都 著 / 文藝春秋
- 4位 『図書館革命』 有川浩 著 / メディアワークス

## 古い図書No.1

和書



1531年識語『長恨歌伝 長恨歌 琵琶行 野馬臺起』1巻 陳鴻, 白居易 撰

洋書



1686年発行『Francisci Willughbeii de Historia Piscium』 Francis Willughby / Oxonii (Oxford)

## 入館者数

単位 (人/1時間あたり)



図書館が1番混んでいるのはお昼休み! 朝や夕方方は空いています。

試験期間の入館者数はいつものおよそ2倍! 必要な資料はお早めに!!

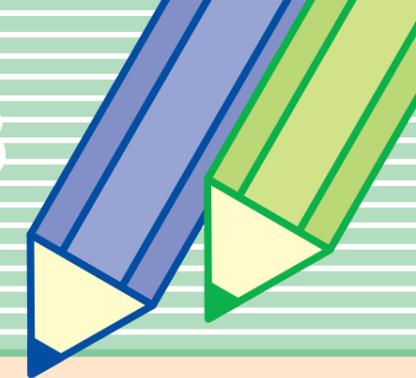
※このランキングは2008年4月1日から8月8日の統計データに基づいています。  
※本の表紙画像は、出版社の許諾を得て掲載しています。



# ブックロウの Pick Upコーナー!!

図書館のホームページ  
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>  
から Check it out !!

# From Students 三重大学図書館



## 書庫内資料もぜひご利用ください

書庫にはおよそ30万冊の資料があります。古くなって利用が少なくなった図書、複数冊ある図書などを中心に保管されています。

書庫の資料を利用したい場合(平日9:00~16:50)は、書庫内図書請求票に必要事項を記入の上、貸出カウンターまでお申し込みください。図書館スタッフがご希望の資料をお持ちいたします。また、院生さんや、書庫利用のためのガイダンスを受けた学部生さんは、ご自分で書庫に入って資料を探することができます。

### 書庫利用ガイダンス

学部学生さんは原則として書庫に入ることができません。でも、ガイダンスを受けると学部学生さんも書庫を利用できるようになります。利用資格のある院生さんも、今よりもっと詳しくなれるかも!ガイダンスのご予約は参考調査カウンターで受け付けています。



## 三重県郷土誌データベース



『三重県郷土誌』は、本学教育学部の前身である「三重師範学校」の生徒が、明治30年代~40年代の夏休み・冬休みの課題として、出身地の地理・歴史・産業について調査した結果をまとめたものです。データベースでは地域、地名、著者から探すことができます。  
三重県郷土誌データベース  
URL:<http://culgeo.i-portal.mie-u.ac.jp/kyodoshi/>

## アイシー ISee (総合検索システム)



Iseeを利用すると、機関リポジトリ「MIUSE」三重大学OPAC、WebcatPlus、CiNiiなど様々なデータベースを一度に検索することができます。  
ISee URL:<http://miuse.mie-u.ac.jp/hbs/>

## 学生さんが体験・図書館職員

三重大学内外から4人の学生さんが図書館へインターンシップに来てくれました! 図書館の仕事を体験して、どんなことを感じたのか聞いてみました。



①愛知淑徳大学文学部3年 伊達翔子です。

印刷機や写本に興味があります。

②機関リポジトリ\*業務です。新しい図書館機能ということで印象に残りました。電子ジャーナルの価格高騰問題や、ウェブ上の文献利用の便利さの観点から今後着目していきたい図書館機能です。

③図書館はもっと閉鎖的なものだと思っていましたが、実際には図書館間だけでなく出版社や他大学、それに地域とも深く関係を持っています。図書館が多方向につながっていることを知り驚きました。

④地域との関係が深いことや、最先端の技術・新しい試みがあり大変勉強になりました。



①愛知淑徳大学文学部3年 岡田健治です。

歴史が好きです。

②本を選んで発注するという仕事は「本当に僕が頼んでいいのかな」と少し不安にもなりましたが、楽しかったです。

③図書館同士で資料を貸し借りする「相互貸借」は授業ではよく聞いていたけど、実際に実習をして他の図書館から三重大図書館へ来る依頼、逆に、他の図書館へ依頼する量が膨大で驚きました。

④三重大学は広いので、図書館まで来るのにちょっと迷ってしまいました。図書館のマスコットブックロウがかわいいです。



### 図書館からの質問

- ①簡単な自己紹介をお願いします。
- ②印象に残った仕事、おもしろかった仕事があれば教えてください。
- ③図書館の仕事を体験して、これまで持っていた図書館のイメージと違っていたところがあれば教えてください。
- ④感想をお願いします。



①三重大学工学部3年 道浦悌です。

ハードウェア関連に興味があります。

②印象に残ったのは、情報リテラシー講習会の講師体験です。まさか図書館でこんな体験をするとは思いませんでした。「何とかなる」と思ってやりましたが、言いたいことの半分も言えなかった気がします。

③図書館に行かなくても、ホームページから電子ジャーナルや機関リポジトリ\*といったものを利用できるのでとても便利だと思いました。今後レポートや卒論に利用したいと思っています。

④インターンシップを通じて、イメージとしての職業がリアルな職業になり、自分にとって大きな利益となりました。



①三重大学人文学部3年 柏木真希です。

「家族」と「法」について学んでいます。特に「子ども」と「法」に興味があります。

②本を選び、発注する作業です。自分の選んだ本がやがて図書館に並ぶのだと思うとワクワクします。未来に遺す本を選ぶ…ロマンがありますね。

③ホームページや機関リポジトリ、情報リテラシー講習会等々「情報」に関する様々な業務を身近に見て学ぶことで、社会の中で情報のあり方が大きく変わり、それに伴って図書館も変わってきているのだな、と感じました。

④今回学んだことを、これからの生活に活かしていきたいですし、もっとたくさんの人に三重大の図書館を知って、利用してもらいたいと思いました。



\*機関リポジトリとは  
三重大学の機関リポジトリMIUSEは、三重大学の先生方が生産した論文などを収集、蓄積、保存しているインターネット上の保存書庫です。MIUSEは図書館のホームページから見るすることができます。

From Students

From Students

## 平成20年度秋の文献検索講習会を開催します!

Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
10/27	10/28	10/29	10/30	10/31
国内	国内	国内	国内	国内
	11/ 4	11/ 5	11/ 6	11/ 7
	海外	海外	海外	海外
11/10	11/11	11/12	11/13	11/14
レポート	レポート	レポート	レポート	レポート
11/17	11/18	11/19	11/20	11/21
プレゼン	プレゼン	プレゼン	プレゼン	プレゼン

実施期間・内容は左の日程表を確認してください。  
ふるってご参加ください!当日参加も大歓迎です!!

時 間:10:30-12:00

予 約 制:参考カウンター・電話・E-mailにてお申込みください

連 絡 先:附属図書館情報リテラシー担当

059-231-9089 (電話)

literacy@ab.mie-u.ac.jp (メール)



## 附属図書館研究開発室ホームページOPEN!

研究開発室は、高度な図書館サービスの実現を図るための調査、研究、開発を行っています。図書館2階ギャラリーでは、展示も行っています。?発見塾をはじめ、イベント情報もホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。

研究開発室ホームページURL <http://www.lib.mie-u.ac.jp/lab/index.html>

### 展示図書コーナー新着図書

(2008年1月~6月発行分)

- 水越允治 人文学部名誉教授/『古記録による14世紀の天候記録』水越允治編 東京堂出版 2008.01
- 碓井 崧 人文学部名誉教授/『社会学:原典で読む「規格化」と「多様化」』碓井崧著 ミネルヴァ書房 2007.4
- 廣岡義隆 人文学部教授/『萬葉の散歩みち 上・下巻』廣岡義隆著 新典社 2008.7
- 尾西康充 人文学部教授/『近代解放運動史研究:梅川文男とプロレタリア文学 増補改訂版』尾西康充著 和泉書院 2008.03
- 山中 章 人文学部教授/『支配の古代史』広瀬和雄、仁藤敦史編; 海津一郎 [ほか]著 学生社 2008.03
- 塚本 明 人文学部教授/『道中記に描かれた三木里~曾根次郎坂太郎坂:二五〇点の旅の記録から』  
三重大学人文学部塚本明研究室編 三重大学人文学部塚本明研究室 2008.3
- 塚本 明 人文学部教授/『「伊勢新聞」東紀州関係記事一覧(明治年間)』 三重大学人文学部塚本明研究室 2008.03
- 塚本 明 人文学部教授/『尾鷲組大庄屋文書(一紙文書)調査報告書』 三重大学人文学部塚本明研究室 2008.3
- 塚本 明 人文学部教授/『東紀州関係総合文献目録』 三重大学人文学部塚本明研究室 2008.03
- 小川眞里子 人文学部教授/『性差とは何か:ジェンダー研究と生物学の対話』日本学術協力財団編集; 金澤一郎 [ほか執筆]  
日本学術協力財団 2008.01
- 江成 幸 人文学部准教授/『地域のグローバル化に即応した学生の養成:「チャンス事業」の概要と成果』  
三重大学人文学部多文化共存センター、三重大学教育学部日本語教育コース編 三重大学人文学部多文化共存センター: 三重大学教育学部日本語教育コース 2008.3
- 山田雄司 人文学部准教授/『景観形成の歴史地理学: 関東縁辺の地域特性』石井英也編著 二宮書店 2008.3
- 藤田達生 教育学部教授/『「教科力」構築プロジェクト:時代に即応する新しい教員養成のために』藤田達生編 三重大学教育学部社会科教育講座 2008.3
- 荒尾浩子 教育学部准教授/『デジタル時代のアナログ力:問われる現代社会の人間力』浅間正通、山下巖編著 日本図書センター 2008.4
- 大原興太郎 生物資源学部名誉教授/『農、教育、人生: コーおじさんの七転八倒半生記』大原興太郎著 三重大学出版会 2008.6
- 大原興太郎 生物資源学部名誉教授/『有機的循環技術と持続的農業』大原興太郎編著 コモンズ 2008.6
- 大原興太郎 生物資源学部名誉教授/『哇に語れば: 大原興太郎教授最終講義録: 大原先生への寄稿文集』  
大原教授の三重大学退職を記念し祝う会事務局編 大原教授の三重大学退職を記念し祝う会事務局 2008.6
- 石田正昭 生物資源学部教授/『農村版コミュニティ・ビジネスのすすめ: 地域活性化とJAの役割』石田正昭編著 家の光協会 2008.5
- 林 拙郎 生物資源学部教授/『自然環境保全のための保全砂防学入門:土砂災害の予知と防災』林拙郎著 電気書院 2008.5
- 松村直人 生物資源学部教授/『GISと地域の森林管理』松村直人編著 全国林業改良普及協会 2007.3
- 吉村英夫 元共通教育非常勤講師/『チャップリンを観る:そして「ローマの休日」へ:吉村英夫講義録』吉村英夫 [述] 草の根出版会 2008.1
- 吉村英夫 元共通教育非常勤講師/『黒澤明を観る: 民の論理とスーパーマン:吉村英夫講義録』吉村英夫 [述] 草の根出版会 2008.8

### \*\*編集後記\*\*



●表紙の写真: 122号の表紙は、館内のいたる所で笑顔をほころばせる学生の皆さんです。図書館は知の宝庫です。ぜひ図書館で新しい発見をして、知的好奇心を満たしてください。

- 本号「自著を語る」のテーマ、怨霊といえば菅原道真、道真といえば雷を思い浮かべますが、今夏は全国的に雷発生数が多く、三重大学でも落雷による被害を受けました。クワバラクワバラです。
- クワバラの呪文の語源は、一説には桑原という地には雷が落ちたことがないということからきているようですが、今の附属病院のあたりはもともと三重高等農林学校の農場でかつては桑畑が広がっていて、いわゆる桑原であったそうです。
- クワバラの豊験あらたかに落雷による過電流が精密機器等を損傷しないことを願うばかりです。